

COSMETIC COMPOSITION

Publication number: JP9249549
Publication date: 1997-09-22
Inventor: TAKENAKA GEN; YOSHIMUNE SADANORI
Applicant: LION CORP
Classification:
- international: (IPC1-7): A61K7/48; A61K7/00
- european:
Application number: JP19960088808 19960318
Priority number(s): JP19960088808 19960318

Report a data error here

Abstract of JP9249549

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a cosmetic composition free from a smell and capable of stimulating the flow of blood and remarkably improving dropsy and myodynia at an application site by applying the cosmetic composition to the application site. **SOLUTION:** This cosmetic composition such as lotion, gel or spary contains one or more kinds of eugenol derivatives selected from acetyl eugenol, methyl eugenol, methyl isoeugenol, ethyl eugenol, ethyl isoeugenol and eugenol salicylate, and 1-menthol and/or isopentane.

Data supplied from the *esp@cenet* database - Worldwide

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-249549

(43)公開日 平成9年(1997)9月22日

(51)Int.Cl. ⁸	識別記号	片内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K	7/48		A 6 1 K	7/48
	7/00			7/00
				C
				W
				S

審査請求 未請求 請求項の数1 F D (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平8-88808

(22)出願日 平成8年(1996)3月18日

(71)出願人 000006769

ライオン株式会社

東京都墨田区本所1丁目3番7号

(72)発明者 竹中 玄

東京都墨田区本所一丁目3番7号 ライオン株式会社内

(72)発明者 吉宗 貞紀

東京都墨田区本所一丁目3番7号 ライオン株式会社内

(74)代理人 弁理士 池浦 敏明 (外1名)

(54)【発明の名称】 化粧品組成物

(57)【要約】

【課題】 局所に適用することにより、適用部位での血流を促進させ、むくみ、筋肉痛を著しく改善することができる、臭気のない化粧品組成物を提供する。

【解決手段】 アセチルオイゲノール、メチルオイゲノール、メチルイソオイゲノール、エチルオイゲノール、エチルイソオイゲノール及びサリチル酸オイゲノールから選ばれる1種以上のオイゲノール誘導体を含有し、かつ1-メントール及び/又はイソペンタンを含有することを特徴とするローション、ジェル、スプレー剤等の化粧品組成物。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 アセチルオイゲノール、メチルオイゲノール、メチルイソオイゲノール、エチルオイゲノール、エチルイソオイゲノール及びサリチル酸オイゲノールから選ばれる1種以上のオイゲノール誘導体に1-メントール及び/又はイソペンタンを配合したことを特徴とする化粧料組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、皮膚に刺激を与えることなく血流量を増加させ、むくみ、筋肉痛を有効に改善し、しかも臭気のない化粧料組成物に関する。

【0002】

【従来の技術】現在、血行促進剤としては血管平滑筋拡張薬、 α -アータゴニスト、 β -アータゴニストが使用されている。また、漢方の分野では、抗鬱血剤と呼ばれるボタンピ、センキュウ、トウキ、コウカ、トウニン等が使用されてきた。しかし、いずれの薬物も内服で用いられており、経皮吸収性および効果の面から外用で用いられることは少ない。医薬品以外で化粧料、医薬部外品の分野において酢酸d1- α -トコフェロール、グリセリン、エタノール等の薬剤が末梢血流改善剤として使用されているが、その効果については充分であるとは言えない。

【0003】トウガラシエキス、トウガラシ末、カプサイシン等の皮膚刺激薬を皮膚に適用することにより、皮膚に温熱感を与えることは古くから知られている。これらは肩こり、腰痛などに対する消炎・鎮痛の目的で外用剤に使用されている。しかしながら、現在一般に適用されている濃度では温熱感が低いうえ、皮膚刺激性が高く、例えば、パップ剤として貼付していると、温熱感ではなく痛みを感じたり、皮膚の発赤が多く認められる。また、ショウガ、サンショウ等の辛味性生薬を用いて皮膚に温熱感を与えようとする試みもなされているが、実効果・実感が期待できない。

【0004】一方、むくみを改善する薬剤としては、内服ではサイアザイド系などの降圧利尿剤、外用では一部、マッサージ剤等が考案されているが、いずれの場合も効果あるいは使用性において満足できるものとは言えない。また、筋肉痛を治す薬剤としては、サリチル酸メチル等のサリチル酸系やインドメタシン、ケトプロフェンなどが使われているが、デリケートな皮膚には刺激が強く、特に、子供や女性にはあまり好ましくない。チョウジ抽出物等に含まれるオイゲノール誘導体の中には、オイゲノール、イソオイゲノール、アセチルイソオイゲノール、ジヒドロオイゲノール、ベンジルオイゲノール等の皮膚感作性の高い物質が含まれて、問題とされていた。

【0005】そこで、本出願人は、先に、特定のオイゲノール誘導体を配合した皮膚外用剤組成物に関し提案し

た(特開平6-287135号)。この皮膚外用剤組成物は、末梢血流量を増加し、むくみの改善に一応の効果は認められるものの、十分に満足しうるものではない。しかもこの皮膚外用剤組成物の成分である特定のオイゲノール誘導体、例えばアセチルオイゲノール等は、チョウジ抽出物等からも得られるが、通常はオイゲノールを原料とし、反応処理して製造され、市販されており、これら市販のオイゲノール誘導体は臭気があるという問題も有している。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、皮膚の痛みを感じたり、皮膚が真っ赤になることなく末梢血流量の増加を促し、これにより局所のむくみ/筋肉痛を更に改善し、しかも臭気のない化粧料組成物を提供するものである。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明者等は、前記問題を解決すべく鋭意研究を行なった結果、前記特定のオイゲノール誘導体に対して1-メントール及び/又はイソペンタンを含有させることにより臭気改善効果が発揮でき、しかも皮膚の痛み及び発赤を生じることなく末梢血流量を有意に増加させ、これによりむくみ/筋肉痛を更に改善できることを見出し、本発明を完成するに至った。

【0008】すなわち、本発明によれば、アセチルオイゲノール、メチルオイゲノール、メチルイソオイゲノール、エチルオイゲノール、エチルイソオイゲノール及びサリチル酸オイゲノールから選ばれる1種以上のオイゲノール誘導体に1-メントール及び/又はイソペンタンを配合したことを特徴とする化粧料組成物が提供される。

【0009】

【発明の実施の形態】本発明における化粧料組成物の主成分は、アセチルオイゲノール、メチルオイゲノール、メチルイソオイゲノール、エチルオイゲノール、及びサリチル酸オイゲノールから選ばれた1種以上の誘導体である。かかるオイゲノール誘導体は、チョウジ抽出物等の天然物に由来するものでも、合成品でも良い。また、前記オイゲノール誘導体は上市されているから、市販品をそのまま使用することもできるが、通常、市販品はその純度が約99%程度であり、約1重量%程度のオイゲノールを含有するため臭気強いものであるから、望ましくは精製しオイゲノール含量をできるだけ少なくしておくことが望ましい。本発明においては、好ましくはオイゲノール含量を0.7重量%以下、更に好ましくは0.3重量%以下にしておくことが望ましい。

【0010】本発明に用いるオイゲノール誘導体の使用量は、組成物全量に対して0.1~20.0重量%が好ましく、更に好ましくは1.0~8.0重量%である。その使用量が0.1重量%未満であると、脚のむくみ改

善効果が不十分となり、また20.0重量%を超えると、使用感に劣るようになるので好ましくない。

【0011】また、本発明の化粧料組成物においては、上記オイゲノール誘導体に対し1-メントール及び／又はイソペンタンが適量配合される。この1-メントール及び／又はイソペンタンが配合された本発明の化粧料は、これらの成分を含まないものに比べ、臭気がなく、又むくみ改善効果が著しく向上し、使用感にすぐれたものである。1-メントール及び／又はイソペンタンの使用量は、組成物全量に対し好ましくは0.01~70重量%、更に好ましくは10~28重量%である。その使用量が0.01重量%未満であると、むくみ改善効果が不十分となり、又、70重量%を超えると、臭気が強く、また安定したスプレー性状が得られなくなるので好ましくない。

【0012】また、本発明の化粧料組成物中に水分が多量に存在すると、オイゲノール誘導体の加水分解が起し、臭気の原因となるオイゲノールが発生し、オイゲノールの含有量が増加するため好ましくない。従って、本発明においては、化粧料組成物に存在する水分量を可能な限り少なくすることが好ましく、具体的には全化粧料組成物に対して5000ppm以下、好ましくは1000ppm以下とすることが望ましい。このような水分含有量の少ない化粧料組成物は、例えば溶媒として高純度のエタノールを用いること等によって調製できる。かかる水分含有量の少ない化粧料組成物は、組成物中の主成分である前記オイゲノール誘導体の加水分解反応が抑制されるため、長期の使用に亘っても臭気がなく、しかもむくみ改善効果も長期間持続し、その長期保存安定性に優れたものである。

【0013】更に、本発明の化粧料組成物には、通常化粧料に配合される種々の成分を配合することができる。このような成分としては、界面活性剤、高級アルコール、脂肪酸、シリコン等の油分、シャクヤク、ショウブ根等の生薬、香料等が挙げられる。

【0014】本発明における組成物の剤形としては、ローション、ジェル、スプレー剤等いかなるものであつて

もよい。

【0015】以下、実施例に基づいて、本発明を具体的に説明する。

実施例1~5及び比較例1~2

表1に示す処方化粧料組成物を調製し、臭気及びむくみ改善効果を以下に示す測定方法、評価基準により評価し、その結果を表1に示す。

1) 臭気の評価法

専門パネラー10名による官能評価(5段階評価)

- 5 全く匂わない
- 4 殆ど匂わない
- 3 やや異臭がする
- 2 はっきり異臭がする
- 1 かなり異臭がする

(平均点) 4~5点→◎

3~4点→○

2~3点→△

1~2点→×

2) むくみ改善効果の評価法

1日中立ちっぱなしの人10名による官能評価(5段階評価)

本発明品(エアゾール)を夕方一定量噴霧し、30分後に評価した。

- 5 非常に改善された
- 4 やや改善された
- 3 変わらない
- 2 ややむくんだ
- 1 かえってむくんだ

(平均点) 4~5→◎

3~4→○

2~3→△

1~2→×

【0016】

【表1】

成 分	実施例1	実施例2	実施例3	比較例1	比較例2
アセチルオイゲノール	1.0			1.0	
メチルオイゲノール		3.0			1.0
サリチル酸オイゲノール			5.0		
1-メントール	0.5	3.0			
イソペンタン	25.0		5.0		
95%変性エタノール	98.5	94.0	95.0	99.0	99.0
むくみ改善	◎	○	○	△	△
臭気	◎	◎	◎	△	△

(単位：重量%)

【0017】

実施例4；エアゾール	(重量%)
メチルオイゲノール	1.0
1-メントール	1.0
サリチル酸グリコール	1.0
ミリスチン酸イソプロピル	0.7
イソペンタン	15.0
香料	微量
エタノール	バランス
(原液L/PG=1/1)	

このエアゾールを用いて実施例1と同様に臭気及びむくみ改善効果を判定したところいずれの項目も◎であった。

た。

【0018】

実施例5；エアゾール	(重量%)
アセチルオイゲノール	1.0
1-メントール	0.5
サリチル酸グリコール	0.5
ノニオン活性剤	0.3
ジメチルポリシロキサン	0.7
イソペンタン	20.0
香料	微量
エタノール	バランス
(原液L/PG=6/4)	

このエアゾールを用いて実施例1と同様に臭気及びむくみ改善効果を判定したところいずれの項目も◎であった。

【0019】

【発明の効果】本発明の化粧品組成物は、局所に適用することにより、発赤、痛み等を生じることがなく、適用部位での血流を促進させ、むくみ/筋肉痛を著しく改善することができ、また臭気がないものである。